

磐田市認知症施策 取り組み状況と今後の推進

1 磐田市認知症施策 令和6年度取り組み状況

↓豊浜小4年生を対象に開催

(1)認知症への理解を深めるための普及啓発の推進

①認知症サポーター養成講座の開催

- ・令和6年度…37回開催・674人 (R7.2.27時点)
地域のサロン、金融機関、小・中学校などで開催。
- ・認知症サポーター…累計 21,678人 (R7.2.27時点)
(うち、子どもサポーター…4,806人)

・認知症サポーター通信

認知症サポーター養成講座受講者にアンケートを実施。

希望者に対し、地域の活動や認知症の方への声かけのポイントなど記載した通信を送付。(R6.10月)



②認知症地域支援推進員の配置

- ・地域の認知症施策の中心として活動。地域包括支援センター職員が兼務(8名)
- ・認知症地域支援推進員連絡会 6回実施(認知症の方と家族への早期対応、若年性認知症交流会等についての検討)

③キャラバン・メイトの活動支援

※地域や学校、企業などで認知症に対する正しい知識と具体的な対応方法などを市民に伝える「認知症サポーター養成講座」の講師の役割を担う方のこと

- ・キャラバン・メイト 38名 (R6.5キャラバン・メイト活動意向調査の実施)
R7.2 静岡県養成研修では2名受講。

- ・キャラバン・メイト連絡会を4年振りに開催

○事務局から活動報告・情報提供

(認知症基本法・認知症サポーター養成講座についての説明など)

○意見交換会

(キャラバン・メイトの活動・今後やっていきたいことなど)

- ・キャラバン・メイト通信…3回発行

(認知症施策の最新動向、市内の取組み、メイトのインタビューなどを掲載)



④認知症の理解促進に向けた地域での普及啓発事業

- ・認知症フォーラム、講座等… 10回開催 (R7.2.27時点)

(例) R6.7 南部認知症フォーラム：静岡県認知症希望大使(認知症当事者)の講演

R6.6 向笠認知症予防講座 市内認知症サポート医による講話 など)

- ・認知症カフェ… 32回開催 (R7.2.27時点)

※認知症のこと、認知症の方の介護のことなど、日頃の悩みや心配ごとを気軽に相談したり、話し合える場所

(2)認知症の進行段階に合わせた、医療・介護の提供

- ①認知症疾患医療センター（磐田市立総合病院）、市内認知症サポート医との連携
- ②いわた認知症ハンドブックの活用

- ・認知症への正しい理解と、早期に相談・受診につなげるために、基本知識や相談先などを記載したパンフレット。(R5に改訂)
- ・本人・家族向けに医療機関、地域包括支援センター窓口などで配布。



③認知症安心ガイドの作成

- ・認知症への理解を広めるとともに、自分や家族が認知症になったときの不安を少しでも軽減できるよう一般向けに作成。
- ・交流センター、図書館、医療機関、地域包括支援センターなどで配架。



④認知症初期集中支援チーム

H30年度から実施しており、H30年度1件、R元年度2件、R3年度1件、R4年度1件、R5～現在0件認知症地域支援推進員連絡会にて、地域包括支援センターでどのようなケースに困り感があるのか等、現状の共有と対応策の検討を行った。

【課題】

- ・認知症だけでなく、精神疾患等複合的な課題が疑われるケースも多い。
- ・「認知症を隠したい」「認知症になりたくない」という意識が強く、自分自身の変化を感じても早期受診・相談につながっていない。(重度化するとより受診拒否につながる)
- ・専門職も本来の仕事がある中で、チームとして突発的なケース対応することが難しい。

【認知症の本人・家族への対応についての課題】

認知症地域支援推進員連絡会にて、地域包括支援センターでの認知症の方への対応課題について検討した。引き続き対応策の検討や事例の共有を行う。

- ・軽度者（MCI等）への支援方法
- ・相談対応での困りごとに対する助言
- ・受診拒否（本人拒否、家族の無理解）への対応
- ・精神疾患等との複合要因の疑いへの対応

(3)認知症予防の推進

①継続的な認知症予防活動の普及

社会参加により認知機能の維持を図る。

- ・いきいき百歳体操・かみかみ百歳体操・しゃきしゃき百歳体操…116団体 (R7.2.27時点)

※イスに座り映像に合わせて行う体操。筋力・口腔機能・認知機能の維持・向上などが期待され、交流センター等で週1回実施している。

- ・シニアクラブ… 91 団体 (R7.2.27 時点)
- ・高齢者サロン…176 団体 (R7.2.27 時点)



(4)認知症の人とその家族への支援

①認知症介護者への在宅介護手当の支給

・負担の大きい要介護者の介護の慰労を行うとともに、要介護者の在宅福祉の増進を図るために介護者等へ支給。

- ①要介護3以上の状態が1年以上継続 + 重度の認知機能の低下が見られる方の介護者等
- ②要介護2の状態が1年以上継続 + 重度の認知機能の低下が見られる方の介護者等

支給件数	令和4年度	令和5年度	令和6年度 ※令和7年2月支給分まで
全体	481	483	475
①	72	80	75
②	30	30	29

②認知症の方やその家族の集いの場の普及

- ・認知症カフェ
- ・認知症家族介護者交流会…6回(地域包括支援センターを中心に事業所や地域住民と協働して開催)

(5)認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進

①認知症サポーター

②チームオレンジ

※認知症サポーターが自身の活動を一步前進させ、仲間とチームを組み、地域で暮らす認知症の人や家族の困りごとに対する支援などを行う取組み。

- ・令和5年度、2チーム発足(南部「いいら!サンバ」・中部「あい」)

(活動) 地域包括支援センターと該当地域のキャラバンメイトによる講座開催、認知症カフェのボランティアなど。

③認知症高齢者等事前登録制度(見守りオレンジシール)(H29.3月開始)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
オレンジシール登録者 (12月末時点)	172名	204名	195名
行方不明捜索同報無線 (2月末時点)	19件 (オレンジシール登録者9名)	16件 (オレンジシール登録者0名)	18件 (オレンジシール登録者6名)

④認知症高齢者等個人損害賠償保険事業（R2年度開始）

- ・事前登録者の中で保険加入を希望する方を対象に、踏切事故、交通事故等で他者に負わせた損害を補償するもの…保険加入者：184名（R6.12月末時点）

2 令和7年度 今後の取り組み

(1)認知症の正しい理解、知識の普及啓発の強化

①認知症サポーター養成講座 企業へのアプローチ

小・中学校や地域のサロンでの認知症サポーター養成講座は多いが、買い物等の日常生活に関わる業種への講座開催は少ない。認知症の方と接する機会が多いと思われる業種や現役世代への啓発が必要。

- ・企業向けチラシの作成・周知
- ・企業での講座開催により認知症（若年性認知症含め）の啓発を行う
- ・見守りネットワーク事業の協定を結んでいる企業への声かけ
- ・せいかつ応援クラブなど地域で認知症の方と関わる機会が想定される方への講座開催

②認知症サポーター、キャラバン・メイトのフォローアップ

認知症サポーター養成講座の受講者は増加しており、認知症への理解が進んでいると思われるが、受講後に学びを活かす機会が少ない状況。キャラバン・メイトもコロナ禍で活動できていなかった方が多く、活動意欲を十分に活かすことができていない。

- ・認知症サポーター養成講座受講者に対するフォローアップ研修の検討
- ・認知症サポーターが活躍できる場の提供
（地域のサロンや認知症カフェのボランティア活動、地域の見守り活動等）
- ・キャラバン・メイトの交流機会の充実
他メイトと交流する事で、活動状況やモチベーションの向上にもつながる。

(2)本人、家族への支援

①若年性認知症当事者、家族の交流の場の提供

コロナ禍前には当事者及び家族の意見交換会を実施していたが、中断してしまい、現在は同世代の人と悩みや不安を共有する機会が少ない。

- ・磐田市人権教育講演会にて若年性認知症当事者による講演会を開催
R7.11.29 映画「オレンジランプ」の上映
若年性認知症当事者 丹野智文 氏 講演

(3)認知症施策推進基本計画の策定

共生社会の実現を推進するための認知症基本法の施行に伴い、「新しい認知症観」に立った市町村認知症施策推進基本計画の策定（努力義務）、推進が求められている。

- ・県が策定を進めている計画を基本とし、市の基本計画の策定を検討する。